在日朝鮮人社会における親密圏と公共圏の変容

Transformation of the Intimate and Public Spheres in the Zainichi Korean Society

李洪章（京都大学大学院文学研究科　博士後期課程 ／ 日本学術振興会特別研究員）

【メンバー】

山口健一（京都大学大学院文学研究科　研究員）

孫片田晶（京都大学大学院文学研究科　修士課程）

橋本みゆき（立教大学社会学部　兼任講師 ／ 横浜市立大学国際総合科学部、他、非常勤講師）

金泰植（九州大学大学院比較社会文化学府　博士課程）

【ねらいと目的】

「帰国」から「定住」へ、「定住」から「永住」へという志向性の変遷にみられるように、在日朝鮮人社会は戦後から一貫して変動し続けている。近年においては、日本人との「国際結婚」や日本籍者の増加に伴い、旧来の在日朝鮮人社会を規定していた「民族」カテゴリーの求心力は急速に失われつつある。こうした状況下で、特に若い世代の在日朝鮮人は、集合的記憶と個人的記憶が錯綜するなかで、自らの立場性を見出せないでいる。従来の在日朝鮮人研究は、こうした社会の変化を主にアイデンティティ論の文脈から論じてきたのに加え、「民族」カテゴリーをめぐる「本質主義か構築主義か」の二元論に回収する。そのため、在日朝鮮人社会における新しい「圏」の創出については考察されていない。そこで本ユニットでは、植民地主義を伴って近代化が進んだアジア地域における、在日朝鮮人をはじめとしたコリアン・ディアスポラの親密圏と公共圏の変容過程を理解すべく、従来の在日朝鮮人研究を批判的に検討したうえで、日本社会や韓国社会における在日朝鮮人表象や、在日朝鮮人のアイデンティティ変容を踏まえつつ、在日朝鮮人の生活や活動、社会運動の変化を分析する。また、コリアン・ディアスポラの新たな「圏」の創出を研究対象とする韓国と日本の大学に在籍する次世代研究者間のネットワークの構築をするために、韓国において研究会を行い、ソウル大学などに所属する次世代研究者を招聘し、学術交流を図る。

【活動の記録】

2009 年 2 月 25 日

東京にて、マイノリティ問題研究会（埼玉大学・福岡安則氏主宰）との共催で研究会を開催した。

3 月 21 日～22 日

韓国・ソウル大学校にて、ソウル大学校日本研究所・社会学科との共催で「東北アジアにおけるコリアン・ディアスポラの親密圏と公共圏」ワークショップを開催した。各メンバーは上記の研究内容に関する論文を執筆したうえで報告を行った。メンバー以外にも報告者を募り、計 11 名が報告を行った。

【成果の概要】

以下の 4 つの具体的テーマに関して研究を行った。①李洪章・橋本みゆきは、在日朝鮮人の国際結婚に関する調査を行った。在日朝鮮人男性と日本人女性の国際結婚に関する語りの分析を通して、橋本は 2 つの親密圏の重なりあいという視点からエスニック関係の変容を、李は「民族性の固守・継承」と「家族戦略」という二つの視点から在日朝鮮人男性による国際結婚言説構築の過程を捉えた。②山口健一は、東九条マダン（在日朝鮮人と日本人によって催される在日朝鮮人の民族まつり）に関する調査を行い、東九条マダンという文化運動としての民族まつりに含まれる、歴史的・政治的要素の一端を考察した。③金泰植は、韓国映像資料院にて在日朝鮮人が登場する韓国映画に関する資料の収集を行い、韓国の反共映画において在日朝鮮人がどのように描かれてきたかについて、『EXPO70 東京戦線』(1970)と『帰ってきた八道江山』(1976)のふたつの映画作品を通して考察した。④孫片田晶は、在日朝鮮人の学生団体「在日韓国学生同盟京都府本部」の運動を、マイノリティがアイデンティティの再構築を行う自助運動コミュニティを実践コミュニティ（実践共同体）の視点から、その特徴的実践と戦略を明らかにした。

本ユニット主催の「東北アジアにおけるコリアン・ディアスポラの親密圏と公共圏」ワークショップ終了後の集合写真。ソウル大の鄭根植先生と韓榮惠先生、聖公会大の権赫泰先生に連日参加していただき、貴重なアドバイスを頂いた。

ワークショップ翌日のソウル市九老区カリボンドンでのフィールドワーク。中国朝鮮族の集住地域となっている。ここに事務所を構える中国同胞タウン新聞の編集長に案内をしていただいた。区画整理が進んでおり、この街並みは３年後には消えてしまう。